

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

貢献を重視することによって良い人間関係が保てる (P. F. ドラッカー)

1. 人間関係の能力のもつことによって、良い人間関係がもてるわけではない。自らの仕事や他との関係において、貢献を重視することによって、良い人間関係はもてる。そのようにして人間関係は生産的となる。生産的であることが、良い人間関係の唯一の定義である。仕事上の成果がなければ、温かい会話や感情も無意味である。逆に、関係者全員に成果をもたらす関係であれば、失礼な言葉があっても人間関係を壊すことはない。
2. 成果を上げる秘訣とは、ともに働く人たち、自らの仕事に不可欠な人たちを理解し、その強み、仕事のやり方、価値観を活用することである。仕事は、仕事の論理だけでなく、ともに働く人たちの仕事ぶりに依存するからである。組織内の摩擦のほとんどは、互いに、相手の仕事、仕事のやり方、重視していること、目指していることを知らないことに起因する。つまり、問題は、互いに聞きもせず、知らされもしないことにある。
3. 果たすべき貢献を考えることによって、横へのコミュニケーションが可能となり、チームワークが可能となる。自らの生み出したものが成果に結び付くには、誰にそれを利用してもらうべきかとの問いが、命令系統の上でも下でもない人たちの大切さを浮き彫りにする。(参考:「週刊ダイヤモンド」2010年9月号)

幹部への活きた言葉

部下をしかるががっかりはさせない

1. 部下との円滑な関係を保つには、「嫌われないこと」が一番だと思っている人がいる。だが、これは必ずしも正しい考えではない。一度しかって部下を否定したら、後でその5倍、部下を肯定する。そんな気構えと、「仕事を進めるための必然性」さえあれば、上司は嫌われても構わない。
2. 上司にとって致命的なのは、「嫌われること」ではなく、「がっかりされること」だ。人間は、ちょっとしたことで一度嫌った人間を再び好きになるが、一度がっかりさせられた相手を簡単に見直すことはできない。本田宗一郎氏も、松下幸之助氏も、多くの部下をしかり、時には嫌われた。しかし、部下から「がっかりされたこと」は一度もない。

(参考:「日経トップリーダー」:2010年11月号)

ワンポイント経営アドバイス

長寿企業 2 万 2219 社

1. 帝国データバンクの調査によると、創業 100 年以上の企業(個人経営、各種法人を含む)は、2010年8月末時点で2万2219社に上る。創業時期を見ると、100~150年前が2万0056社と、長寿企業の9割以上が江戸時代末期から明治時代後半までに創業している。
2. 以下、151~200年前が972社、201~300年前が586社、301~400年前が414社、401~500年前が152社。創業500年を超える超・長寿企業も39社存在する。都道府県別では、東京都が2058社とトップ。愛知県1211社、大阪府1080社、京都府、新潟県も1000社を上回っている。戦争や災害、産業構造の変化など困難を乗り越えた原動力は、変化への対応力だ。

(参考:「週刊東洋経済」2010年10月2日号)

古典に学ぶ

局外者の立場に身を置いて

「事を議する者は、身、事の外に在りて、よろしく利害の情をつくすべし。事に任ずる者は、身、事の中に居りて、まさに利害の慮りを忘るべし」

(訳)「菜根譚」という古典にある言葉です。「議論するときには、局外者の立場に身を置いて、十分に利害得失を検討してかかればならない。実行するときには、当事者として、個人の利害得失を度外視してかかればならない」と訳すことができます。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)